

5. 事業実施紹介

事業（2）新潟JCアクションプログラム

「地域のおしゃべりコミュニケーション」

～防災について考えよう！！～



◆実施背景

地域コミュニティにおける住民同士のコミュニケーション不足が、これからの超高齢化・人口減少社会の到来に向け「無縁社会」と呼ばれるような重大な問題になることが予測されます。しかしながら市民の危機意識は薄く、具体的な対策も講じきれていません。問題解決には人任せの民主主義から脱却し、地域住民などの自発的な取り組みにより「安全で安心な地域社会」を構築することが大切です。その為には地域に「話し合いの文化」を形成し意思決定を積み重ねるプロセスが重要ですが、まず地域の身近な課題に目を向ける事が必要と考え、そのきっかけづくりに資するよう本事業を企画いたしました。



◆事業内容

地域コミュニティ復権への道筋を「地域住民などの意思や関心から共通の課題を持ち合い、地域活動への参加を拡大することを通して自分たちが暮らすまちにおける活動の方向性を定めそして強化していくこと」と定義しました。そのためには地域に「話し合いの文化」が必要であり、これを実践する手法として身近な「防災」をテーマにワークショップを実施しました。



コミュニティ協議会の住民に参加してもらい、その住民たちが災害に遭った時に避難所として指定されている小学校で避難所が開設された時に自分たちで何が出来るのか、あるいはできないのか、小学校の実態はどのようになっているのか、日頃備えるべきことはなんであるのかななどの視点から検討し、自分た

ちの「避難所解説マニュアル」を作成する話し合いを行ないました。防災というテーマは、行政と密接に関わりのある事柄なので区役所の関連する複数の部署からもご協力をいただきました。同様に避難所となる小学校にも協力を仰ぎ、実施会場として教室を開放してもらいまた情報提供していただきました。さらに社会福祉協議会職員にも参加してもらい、地域の実状に即した専門的な観点からの意見をもらうことで議論に刺激を与えてもらうことができました。

◆ワークショップの実施

地域を支えているのは地域住民であるという認識を住民に持ってもらうために、参加者が話し合いやすくまた危機感を抱きやすい防災をテーマに3回構成のワークショップを実施しました。このワークショップに参加することで、自分たちが暮らす地域に目が向きその課題や問題点に気付き、よりよいまちづくりのためにはそこに暮らす参加者自身の地域への寄与が必要であるということを確認して頂けました。つまり、地域コミュニティのあり方に目を向ける場の提供をするために本ワークショップ事業を実施しました。



またそこから得られた課題を参加していない地域住民に知ってもらうために、ワークショップ実施後「実施報告書」を作成し回覧板にて配布しました。このことで、ワークショップが実施されたことが地域住民全員に周知でき、また家族のだんらんの場で話題にしてもらうことを狙いました。また回を重ねる毎にワークショップ参加者が増え、より一層地域住民同士のコミュニティ深厚につながる意図を持っています。

話し合いに参加する住民や関係者に対しては、ファシリテーター役の新潟青年会議所メンバーより目的・ルール・プロセス・到達点等を話し合い開始前に分かりやすく説明しました。その後の事業の内容に関するコミュニケーションを円滑に進めることが可能になったと思います。あらかじめプロセスやスケジュールを明確にしておくことで、その後の進行管理や時間管理が可能になります。ただし、反省点としては議論が盛り上がったため時間管理を誤り終了時刻が延びてしまったことで忙しい参加者に不安や不満を与えてしまった点です。

◆行政との協働

事業を実施する自治体や地域事業に関連する福祉協議会、加えて避難所として想定した小学校からの参加をいただき、連携・協働させていただきました。これらの行政機関からは、ワークショップに参加協力し、必要な情報提供や意見・提案を行っていただきました。このように関係機関との情報や意見交換を交えながら、事業に参加協力を求めていくと活動に広がりや奥行きができると思います。

また、話し合いに参加する住民に対しては行政からできるだけ分かりやすく情報提供をして、話し合いやコミュニケーションに対する関心を高めることに努めました。この情報提供は紙資料によるものに加えて、回によってワークショップを開始する段階で口頭で行なったり、ワークショップの進行中にも説明を加えることで話し合いの更なる展開を促すように注力しました。

本事業は行政と協働するモデル事業であり、行政の支援や情報提供なしには実行できない内容でした。関連する資料の提示や、東日本大震災に際しての県外からの避難者を受け入れるという異例の事態の実体験に基づく情報を細かく提供してもらった事で、話し合いに具体的な方向性や議論を深める事ができました。



◆各回のテーマ

第一回 避難所を知ろう

- ・避難所の場所、避難経路を確認して共有しよう
- ・施設利用スペースの利用方法を話し合おう
- ・必要となる設備の確保 備蓄資機材・設備に必要な物を話し合おう

第二回 避難所開設の組織づくり

- ・運営委員会の設置

総務班、被災者管理班、情報広報班、施設管理班の設置目的と役割・その他必要な役割はないか話し合おう

第三回 避難所開設マニュアル（原案）の作成

- ・各班の業務内容を話し合おう
- ・避難所開設マニュアル（原案）を元に今出来ることを探そう

◆ワークショップの成果物

「避難所開設マニュアル」

話し合いの結果をもとに新潟青年会議所で「避難所開設マニュアル」を作成しました。地域に提供することで、今後地域における具体的な行動に移すための材料としてもらう他、配布までの間に取り組むべきことを参加者に宿題として与える事で具体的な活動へ繋がるきっかけづくりの場を提供しました。

◆ワークショップの効果

- 避難所開設マニュアルを作成することで、災害への日頃の備えを考え防災意識を高めると共に「安心して安全な地域を作る」ために、自分の日常における地域コミュニティとの関わり方を考える場とし、そこから地域コミュニティを活性化する効果が期待できます。
- ワークショップでは名札を使用し、知らない住民同士が名前呼び合える雰囲気作りを心掛ける事で円滑なコミュニケーションを図れるようになります。
- 避難所開設マニュアル作成時、参加団体の地域特性に合わせた形式になるよう心がけ、参加団体が次年度以降も当マニュアルをたたき台に話し合いの場を設けて頂けるようにしました。
- 参加団体の会長さんが町内会の役員以外の地域住民にワークショップの参加要請をすることで、普段地域と関わり合いの少ない地域住民とのコミュニケーションを図ることができます。
- タイムリーで生活に直結するテーマを選ぶことで、積極的な意見交換が出来ました。

◆実施報告書の効果

各回終了後に実施内容（日時・場所・参加人数・実施内容・アンケート結果）をまとめた「実施報告書」を作成し配布することで回を重ねるごとに参加者が増えていくように努めましたが、当初予定人数より増えることはありませんでした。

◆今後の課題

今後の課題は、人任や役所まかせから脱却し地域住民の自発的な取り組みにより「安全で安心な地域社会」を構築するために具体的にどのような活動を行うかでしょう。今回のようなテーマになると住民からは行政に対する要望が多く出てきます。しかしながら、行政だけでは解決することのできない課題があることを認識し、地域で解決するには何が出来るのかを考えて実行に移すことが重要です。

また、この話し合いによるコミュニケーションづくりから始める地域住民同士の関係構築あるいは住民と行政との間に築かれた関係をどのように維持・発展しながら事業を進めていくのかも別の課題でしょう。加えて主体性を持って継続的なコミュニケーションを行える仕組みづくりも重要だと思います。そのために情報連絡網を作成することや定期的に会合を実施できる仕組みがあると良いと考えます。

本事業で3回の議論によって作成された「避難所開設マニュアル」は決して十分なものではありません。更に議論を積み重ねることで、残された課題を住民が意思決定を繰り返し地域の方向性を定めていくことが重要です。マニュアルとして明文化したことから、住民間で広く共有することが望まれます。同様に今後のスケジュールや、残された課題に対する検討方針についても意見交換を行い、その結果を地域のイベントや回覧板などを活用して住民に周知することで、関心を引き寄せ喚起するためにも有効ではないでしょうか。



アンケートからの参加者の声

- ・ 民生委員としてなさねばいけない事を考えさせられた
- ・ 今まで自分の住んでいる自治会でも、あまり人と交わる事がなかったが、他の地域でも話せる人が増えて良かった。後は自分の意見をきちんと言える事が重要だと思う
- ・ 防災については、積極的に取り組んで下さる方が多くいると思う
- ・ 隠れた人材の発掘に繋がり住民同士の距離が縮まった
- ・ 防災活動（防災訓練）のみならず、やはり自分が住んでいる地域に最低必要な物資・食料・燃料等を確保出来ていれば安心
- ・ 地域の多くの人と知り合えた
- ・ 避難所開設にはとても細かい所までルール作りが必要だと分かった
- ・ 実際に避難所を設営された人の体験談等も沢山聞きたかった
- ・ 近隣の人を知ること、地域活動をもっと活発にすることが必要
- ・ 実際に身近な問題を話し合う機会があるといいと思う
- ・ 今回の様な身近な事をテーマに気軽に話し合える場作りが必要
- ・ 楽しみながら参加出来るプログラムを合わせるように、多くの方から参加してもらうように工夫が必要
- ・ 地域（隣近所）のコミュニティ作りに積極的に取り組んでいます
- ・ 日常のコミュニケーションの重要性を感じた
- ・ 普段から地域住民がお互いに顔を合わせる機会を出来るだけ作るようにした方がスムーズにいく班別の話し合いをしていきたい
- ・ 住民が気軽に参加出来る催しもの（祭り・視察研修・講習会）その他に老人会のカラオケや草取りなどの実施が必要
- ・ 参加型の場作りを多くする必要がある
- ・ 地域の住民の顔を良く覚えておく必要がある
- ・ 大勢の方とお話をする機会を作る事を心がける
- ・ まずは参加する事が大切
- ・ 希薄になりがちな隣人関係は災害時にネックになるので地域コミュニケーションはこの様な集いが必要
- ・ 幅広い年齢層（職種・業種も幅広く）で話し合いをする機会が必要
- ・ 前回の勉強後に地域の防災訓練があり、炊き出し（アルファ米）のお手伝いをした折に人数の把握の難しさ連絡事項の伝達等の行き違い等にぶつかりその際に本当の被災者になったらという話をする事が出来た